

## 昭和区この人に会いたい。

一般社団法人 日本親子応援団  
統括マネージャー

加藤絵美子さん



日本親子応援団が運営しているmamacafe内のキッズスペース、oyako labo park。

一般社団法人 日本親子応援団の統括マネージャー、加藤絵美子さんは、昭和区吹上の昭和スポーツセンターで定期的にベビーマッサージを教えたりつしやる他、瑞穂区の「名古屋市のママのための「ワーキングスペース」mamacafe」の運営にも携わっておられます。実は加藤さん自身、3人のお子さんのママ。そんな大忙しの加藤さんに、ベビーマッサージに始まる子育てについての思いや考えを、瑞穂区雁道の広々としたmamacafeを訪ねてお聞きしました。

# 伝えたいのは昔ながらのおばあちゃんの知恵。

赤ちゃんの頃にきちんとスキンシップが取れていれば子どもは正しく自立していくものなんです。

インタビューの合間にも、mamacafeを訪れるママさんたちの対応に追われる加藤さん。その原点は、

赤ちゃんが好き！というその一点に尽きるのだそうです。

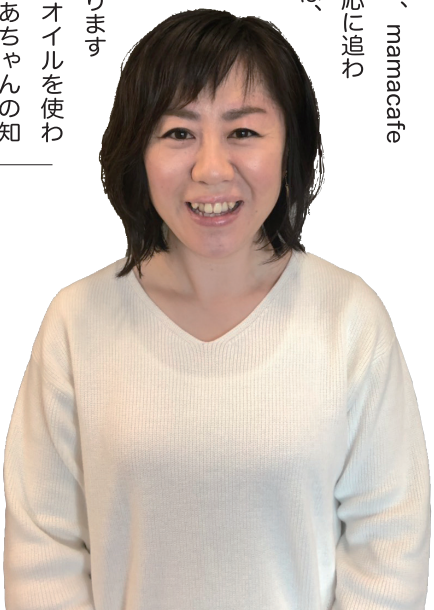
ベビーマッサージという

とオイルを使うやり方があります

が、加藤さんが教えているオイルを使わないやり方は、基本はおばあちゃんのお知恵。誰でも赤ちゃんを抱っこすると、意味はわからなくても背中をトントンしたりしますよね、私たちが教えているのはそういうことなんです。と。ああ、それってすごくよくわかりますね。

それと東洋医学。人間の体には全身にツボがあり、体をさするといのは、それらのツボを刺激することだそうです。どこをどのようにさすってあげれば赤ちゃんが気持ちよくなるのか、それは結局ママと赤ちゃんとのスキンシップの取り方でもあるのだとか。

新米ママさんは、赤ちゃんとの接し方とか距離感とか、それがわかりません。加藤さんはマッサージの仕方をお教えながら、



つまりは子育てに関するママさんたちの不安や問題解消まで行っているんですね。

しかも、触れるというのはいろんな面で効果があるんだそうです。人間の肌というのはそういうひとつひとつのことを記憶しているんですよ、と加藤さんはおっしゃいます。叩かれば痛い、という記憶が肌感覚として残る。逆に優しくなでられたり、さすってもらったりしたら、肌にそのときの気持ち良さがずっと残っていく。例えば小さい頃に何か嫌なことがあったときお母さんにさすってもらって、不安や落ち着かない気持ちがおさまったことがあったとします。大きくなってイライラするようになったことがあったとき、今度は自分でその部

分をさすって、イライラを解消することができるようになったりするのだそうです。

「そうやって、その行為を知恵として次の世代に伝えていく、そうなることが一番いいですよ、それこそおばあちゃんのお知恵のよさよ。」

子どもが小さいうちは、できるだけたくさん触れてあげてほしいですね、と加藤さん。でもあまりそうやっている、子どもは親離れしなくなるのでは？、そうお尋ねすると、そうではなくてちゃんとスキンシップが取れている方が、子どもは早く自立していくんですよ、とお答え。子どもは自分から外に目を向けるようになって、そこでちゃんとお母さんとスキンシップが取れていた子は人の気持ちもわかるし、早く巣立っていくことができるんですよ、と。

でも無理矢理は禁物。嫌がる子に無理にするのは、嫌だ、という気持ちだけが残って逆効果。どこまでやるかは、それはもうその親子次第ですね、とも。

mamacafeには、赤ちゃんの頃昭和区でベビーマッサージを教わったお母さんとお子さん、今度は大きくなって来ることもあるそうです。そんなふうにご子もたちゃご家族の成長が見られるのもうれしいですね、と、加藤さんは微笑むのです。

mamacafeや日本親子応援団についてはこちらをご覧ください。

・ mamacafe

<https://mamacafe.net>

・ 一般社団法人日本親子応援団 親子ラボ  
<https://www.oyako-labo.com/>